

## 第 82 回 KTSM 実技セミナー in 南三陸

### 開催報告

会期：平成 31 年 4 月 13 日（土）

会場：総合ケアセンター南三陸 2F 大会議室

主催：南三陸病院

### 【開催目的】

南三陸町では高齢化に伴い、いずれの疾患においても高齢や認知症による摂食嚥下機能の低下・障害を抱える患者が増加すると考えられる。しかし、摂食嚥下障害に関わる食事介助の知識・技術が不足しているまま食事介助を行っている現状がある。そこで、本セミナーは『口から食べる』支援のために必要な包括的スキルとしての、KTBC ツールの理解、ベットのスクリーニング評価、安全で効率的な食事介助、認知機能が低下している場合の食事介助などの支援技術について、知識・技術の習得を目指す。そして、演習を主体とした相互実習によるスキルアップを図るために実施する。

### ～講師・アドバイザー一覧～<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 （日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） （KTSM 実技認定者）
竹市 美加 （兵庫）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 副理事長 訪問看護ステーション たべる	看護師 （摂食嚥下障害看護認定看護師） （KTSM 実技認定者）
三束 梨沙 （宮城）	気仙沼市立病院	言語聴覚士 （日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） （KTSM 実技認定者）
小野寺 裕子 （宮城）	社会福祉法人 なかうつみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑	看護師 （KTSM 実技認定者）
熊谷 良弘 （宮城）	社会福祉法人 なかうつみ会 特別養護老人ホーム恵心寮	看護師 （KTSM 実技認定者）
小山 達也 （宮城）	社会福祉法人 なかうつみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑	介護福祉士 （KTSM 実技認定者）
吉田 達 （宮城）	社会福祉法人 なかうつみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑	介護福祉士 （KTSM 実技認定者）

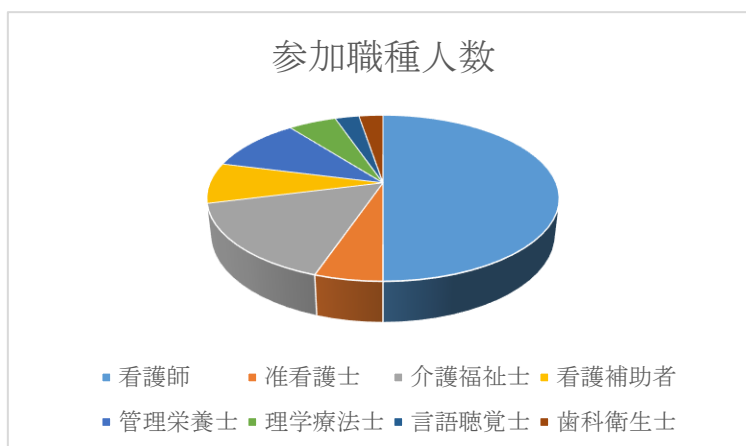
実技セミナー in 南三陸 の様子



## アンケート収集結果（参加者：38名、回答者：34名）

### 【Q1：職種】

看護師	19
准看護師	2
介護福祉士	6
看護補助者	3
管理栄養士	4
理学療法士	2
言語聴覚士	1
歯科衛生士	1
計	38



### ★KTSM 実技セミナーへの参加動機・学びたいこと

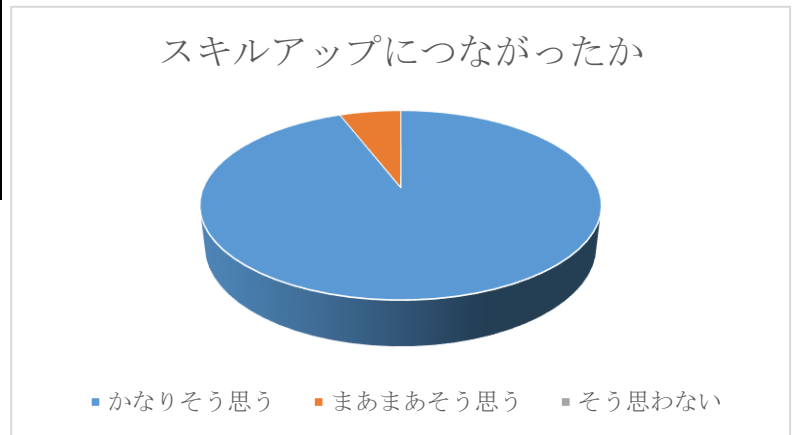
- ・現在ポジショニングや口腔ケアを実施しているが、正しい方法について再度学びたいため。
- ・摂食嚥下が難しい患者が多いが、「口から食べたい」という人が多いため、ニーズを満たすために学びたいと思ったため。
- ・患者の食事介助を行う上で、今以上にスキルを上げ、また専門的な知識を学ぶことにより、よりよい介助ができるようになりたいと思い、参加を希望した。
- ・現在、上手にポジショニングをとれない患者がおり、より有効的なポジショニングについて学びたいため。
- ・正しい食事介助の方法・ポジショニングの仕方について学びたいため。
- ・正しい適切なポジショニングと食事介助の方法について習得し、スキルアップを図りたいため。
- ・誤嚥による肺炎を予防したいため、正しいポジショニングと食事介助の方法を学びたいため。
- ・普段あたりまえのように口から食べているが、口から食べられず、経鼻や胃瘻で栄養摂取している人を多く見てきました。その人たちに対し、自分は今後何をしていくことができるかを学び、活かしていきたいため。
- ・拘縮の強い人への食事介助やうがいが出来ない人の歯磨き介助、正しいポジショニング、食べやすい角度を学びたい。
- ・出血傾向のある患者への口腔ケアと口を開けない患者への口腔ケアや食事介助方法について学びたい。
- ・嚥下障害のある患者へのベットサイドで行える直接訓練などを身につけ、日々のケアに活かしていきたい。絶食から食事開始となった際の評価の仕方を学びたい。
- ・摂食嚥下に興味がある。自分が食べるのが大好きであり、食べることができなくなっ

てしまいそうな患者が自分のケアにより、少しでも摂取できるようにしたいため、スキルを身につけたい。

- ・食事介助時の正しいポジショニングや有効な口腔ケアについて学びたい。
- ・栄養状態の改善に向けた経口摂取での工夫についてなどを学びたい。
- ・正しい食事介助やポジショニングを学び、スキルアップしたいため。
- ・普段から口腔ケアを行っているが、食事介助やポジショニングなどの知識が不足しているため勉強したい。
- ・摂食嚥下につながる口腔ケアの方法について学びたい。また在宅でご家族の実践につなげられるような摂食嚥下の指導方法について学びたい。
- ・正しく正確な摂食方法・摂食形態・判断について学びたい。
- ・摂食への正しい介助方法を学び、自分のスキルアップにつなげることで、楽しく食べる工夫・継続ができるようになりたい。
- ・基本の食事介助方法やポジショニングの方法、安楽な食事介助方法を職場において実践したく学びたいと考えたため。
- ・状態に応じた食事介助方法や、食事に適したポジショニングを学びたい。
- ・4月からの委員会活動に活かしていきたい。
- ・今後も、介助に入る際、基本的なスキルを学び、評価などもできるようにしたい。
- ・摂食嚥下ケアの基本を学ぶことで、看護技術の向上に努めるため。
- ・ポジショニングや口腔ケアなど、摂食嚥下に関する基礎を学びたい。
- ・看護歴8年となり、指導する立場になったため、指導技術・知識を学びたい。
- ・状態不良時に経口摂取が可能かどうかの判断基準と適切な姿勢調整と食事介助技術を習得したい。
- ・現在様々な原因での介助が必要な方が増え、少しでも長く経口摂取ができるようなヒントとなることを学びたいため。
- ・口を開けてもらえない入居者に対して、どのような対応をすればいいのかを学びたい。
- ・介助技術の向上、シーティングについて学びたい。
- ・知識を学び、より深めるべく参加希望した。
- ・摂食嚥下については専門的に勉強したことがなく、基本的なスキルから実際の介助技術まで学びたい。
- ・摂食困難な方が安全に最期まで食べられることを、支援できる技術や知識を学びたい。
- ・特養に勤務しており、様々な状態の方に対して、食事の支援を行っている。食事の際のポジショニングや個々の状態に合わせた食事介助の方法を学び、今後に役立てたい。
- ・ベッド上、リクライニング上での安全な食事提供やスクリーニング評価などを学びたい。
- ・実技セミナーで安全に口から食べることができる知識と技術を習得し、施設全体で伝達することで、統一した支援をしたいため。

【Q2：セミナーの内容はスキルアップにつながりましたか？】

Q2 スキルアップにつながったか	
かなりそう思う	32
まあまあそう思う	2
そう思わない	0



かなりそう思う 32人

- ・ 普段わかっている様で、今まで行っていたことの間違いの多さに絶句。これからは今日のセミナーで習ったことを活かして行きたいと思いました。
- ・ KT バランスチャートを基に包括的に食事の支援をすることの基本を学ぶことができた。実習を行いながらだったため、すぐに臨床に活かせる内容だったので、実践していきたい。
- ・ 水飲みテストやフードテストにまだ自信がなかったので、聴診器の持ち方・当て方など細かい所もわかって、すぐ実践に繋げていきたいと思いました。
- ・ 今までなんとなく行っていたポジショニングの整え方を再確認することができた。
- ・ ポジショニングから、食事介助まで今まで細かい部分は気にしていなかった。患者役をやってみて、正しいポジショニングを体感し、患者は今までこんな気持ちだったのかと気づくことが出来た。
- ・ 食事介助の方法や姿勢を整えることなど、これまで間違っていたことに気づくことができた。
- ・ ポジショニングや口へのスプーンの運びのタイミングなど、実践できて勉強になりました。
- ・ 姿勢の作り方など詳しく理解することが出来た。
- ・ 食事介助の基本も出来ていなかったと思いました。明日から、今日学んだ事を活かしていきたいと思います。
- ・ 摂食嚥下がすごく苦手でしたが、コツや観察のポイント、介助方法が分かりました。
- ・ ポジショニングを行う際、クッションの入れ方をいつも迷っていましたが、今回のセミナーでの演習で効果的なポジショニングを学ぶことができた。
- ・ 見せながら介助をしていたため、上の高さから介助をしていること、スプーンの向きなど、細かい所が、患者ファーストになっていなかったと思った。明日から注意しながら介助していきたいと思う。

- ・講義と実技両方を行うことで、理解を深めることができた。一人一人丁寧に指導していただけた。
- ・普段のケアの再確認となり、疑問に思っていたことも勉強できた。とてもスキルアップに繋がったと思う。またポジショニングの重要性も再確認でき、やり方も分かったので、今後のケアに役立てたいと思う。
- ・介助される方への負担の少ないポジショニングの取り方、今までの食事介助で誤っている点について学びました。
- ・実際に患者を体験することで、安楽な姿勢での食事摂取を感じることが出来た。スクリーニング評価を実際に行い、アドバイザーからの助言をいただけたことで、KT スプーンでのアシスト方法について知ることができ、良かった。
- ・患者側の思いを知ることで、今後の援助に必要なことを学ぶことができた。
- ・実際に食事介助をしてその場でもっと良い方法などを教えてもらい、理解できた。
- ・ポジショニングで迷うことがあったので、参考になりました。
- ・今まで知らなかった知識を身につけられた。
- ・実際モデルになったことで、体験ができて、色々なことに気づくことができた。
- ・正しいポジショニングを行う事により、安全な食事提供を行える技術を習得できた。
- ・介助、ポジショニング、目線、演習をしてやる側、やられる側を体験することにより、良し悪しがよくわかりました。
- ・ポジショニングの一つ一つの意味や、患者様からの目線を直接知ることができた。
- ・実際、患者様の立場になっての体験、実務だったので分かりやすかったです。
- ・働き始めてからしか摂食嚥下に関する勉強をしたことがないが、現場では専門職だからわかるでしょう、といった感じなので、こういった実技セミナーはありがたい。
- ・スプーテクニックについて、実践して教えて頂いたことで、自分の間違いが良くわかり、スキルアップに繋がりました。
- ・ポジショニングのあて物の使用方法や、細かい部分まで丁寧に教えていただき、大変勉強になった。
- ・基本的なことから丁寧に教えて頂き、理解することができました。
- ・ポジショニングの際に今行っているアプローチでは不十分であり、実際に体験することで、どの部位に負荷がかかるかなど理解できた。
- ・自身の姿勢調整は頭部に緊張が入る方法だったと自覚出来た。
- ・普段介助にはかかわらないため、初めてのことばかりだった。自身の知識として身に付いた。

### まあまあ思う2人

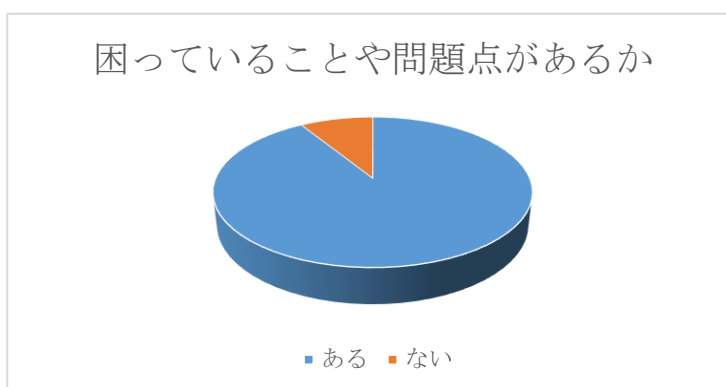
- ・食事を摂る前のポジショニング、周りの環境、スプーンの使い方など、今までの介助ではあまり意識していなかったことが分かりました。
- ・自分が患者側を体験することで、どの姿勢だと食べやすいかなどが分かり、ポジショニ

ングの基本が理解できた。



【Q3 あなたの職場で「口から食べる」ことに関して困っていることや問題点がありますか？】

Q3 困っていることや問題点があるか	
ある	31
ない	3



**ある 31名**

- ・認知症の進行で離床（車椅子）していても閉眼していることが多く、食事を促してもなかなか開口しないことがあったりする人。常に痰からみがあり、吸引を行ってもあまり変わらず、そのまま食べさせてもよいものかと CW より相談されることが多い。
- ・1度嚥下評価を行い、経口摂取できないと言われた患者に対して、再度アセスメントし、経口摂取を試みることがあまりなく、実際は食べる意欲があったかもしれない患者を見逃していた可能性があった。
- ・覚醒不良の方や食べ物を食べ物と認識できない患者がいる。
- ・口から食べられなくなった（高齢で老衰に近い方）の食べる取り組みはどこまで行うべきか。
- ・基本的な問題で、食事というケアを軽んじている。
- ・高齢であり、拘縮もありポジショニングが難しい人が多く、それに伴い誤嚥が起きやすい。
- ・常に右側を向いてしまう患者さんがおり、VE・VFの結果右側の喉頭に残りやすいことが分かったため、正面または左側を向いてほしいもののポジショニングが難しい人がいました。
- ・すすり食べをしていて、腹部膨満が著名になることがある。
- ・摂食に力を入れている職場なので、どのように水分テストをしたらよいのか、フードテストをしたらよいのかわからず、他のスタッフに聞きながら、援助していただいていた。
- ・口唇の不随運動がある方の食物を口に運ぶタイミングについて。
- ・ポジショニングや開口困難な方が多い、午前中にあったスプーンでツンツンとつついていたように思う。
- ・脳梗塞などで、嚥下障害のある患者様や、食事介助者が多く、じっくり介護できないことや、食事に集中できない患者様がいる。
- ・肺炎や発熱がある方の経口摂取時期等、介護職員と看護職員の考えに差が大きいこと。

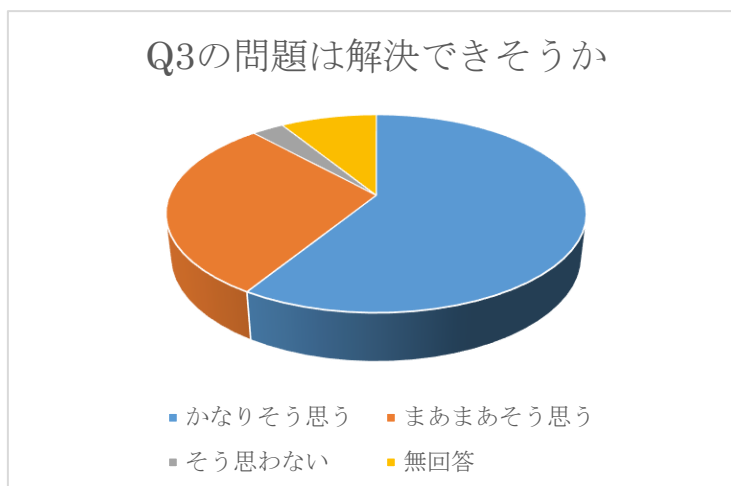


- ・絶食から食事を開始する時の評価方法や技術に自信がない。正しい評価方法が分からなかったなどといった不安を持っているスタッフが多い。
- ・ポジショニングをする時に、2名で援助を行う必要があるのに、朝・夕食時は一人で行うため、正しく行うことができないことが多い。一人一人のスタッフがもっとスキルアップして、援助することができるようにしていかなければならないと思う。
- ・覚醒状態が悪く、口を開けてくれないこと。
- ・どうしても上を向いてしまう、下を向いてしまう、姿勢が崩れてしまう方がおり、保持することが難しい。
- ・食べても吐き出してしまうことが多い入所者様がいる。色々と試しているが、良い解決方法が見当たらない。
- ・ミキサー食やムース食は元の形状が分からないため、食欲がわかないと思う。
- ・ポジショニングの統一がなされていない。
- ・覚醒状態が悪い患者への食べさせ方、自力で食べられるが1時間以上時間がかかる患者への対応。
- ・中々口を開けてくれない方や、食物を飲み込んでくれないことがある患者がいる。
- ・食べることに興味を示さない患者。
- ・KTSMの認定者に研修をしてもらったが、食べる事に対するの感じが一番近くで関わっている介護士が興味・向上心がない。全く現場で実践できていないのに、できている感だけがあり、実際事故も多い。
- ・明らかに間違った食事の介助をしているスタッフがいる。姿勢が崩れたまま食べさせていることが多くある。
- ・食事形態の決定。ポジショニング。
- ・知識のベースが低く、方法に統一性がない。
- ・認知症の方で食事の認識ができていない患者へのアプローチ方法など。
- ・食べ始め、食事開始のリスクを恐れ、始められないことが多く、廃用を進めてしまっていた。
- ・病棟などでスタッフはできているのか？と思うことがある。

### ない3名

【Q4 上記の問題点は、本セミナーで解決できた、できそうですか？】

Q4 上記問題点は解決できそうか	
かなりそう思う	20
まあまあそう思う	10
そう思わない	1
無回答	3



かなりそう思う 20名

- ・ 今後実践して、問題の解決になるように頑張りたいと思います。
- ・ 正確なスクリーニングを実践し、患者の食への意欲を活かせるようにしていきたい。
- ・ 視覚だけでなく、匂いやスプーンのアシスト法や適切なポジショニングで少しでも改善できたらいいなと思いました。
- ・ 本人の希望、家族の面会数や家族のやる気で無性に経口摂取をすすめないことが一つの案としてあることが分かった。
- ・ 今後も、自分自身勉強を積み重ね、教育指導していけたらと思います。
- ・ 今日のセミナーの中で、患者に合わせてクッションなど利用していくことを学び円背の人では頭部の角度に合わせることを学ばせていただいた。
- ・ 水分テスト・フードテストを実践したことで、どのような手順でやるのか、患者さんへの見せ方、声のかけ方が分かりました。
- ・ 肘の位置と体型に合わせたクッションの使用方法やポジショニングで解決できそうだ。開口困難については、ツンツンではなく、口唇を刺激して待機してタイミングをみて介助していきたいと思う。
- ・ わかりやすく説明していただき、自分も利用者役として演習を受けて、どこがひどいのかと利用者の気持ちが分かり、今後のケアに活かしていこうと思った。
- ・ どうすれば上に伝えられるかを考えて行って行きたいと思います。
- ・ 正しいスクリーニング評価について知ることができた。
- ・ 基本を知ることの大切さを学ぶことができた。
- ・ 自分のポジショニングが覚醒状態をよくする方法でなかったと思う。
- ・ 正しいポジショニングを教えていただいた。
- ・ 口への食物の運び方やポジショニングのやり方次第で、患者様の不安な部分を無くすことができそうだと思います。

- ・ポジショニングが上手く出来ておらず、食事に対して苦痛を感じていたかもしれないと考えさせられました。
- ・少しの当て方や位置の違い、介助時のスプーンテクニックなどで不快感がなくなることが実感できました。今後の食事介助に活かしていきたいと思います。
- ・正しいスクリーニングを行えることで解決できそうと感じた。
- ・

#### まあまあそう思う 10名

- ・姿勢の作り方の実践を通し理解できたので、実施したいと思います。
- ・食事の姿勢など見直していきたいと思います。
- ・アセスメントが大切。なぜそうなっているのか考えて介助すること。またできることを知り、介助することを決めるなど。ポジショニングの大切さ。
- ・今回、経験したことを実施していきたいと思います。
- ・各部署と対応を話し合い、今後の対策をたてていきたいが、できるかどうか不安。
- ・ポジショニング等は参考にして実施出来ると思いました。
- ・自分で出来る所は自分でやってもらい、出来ないことをお手伝いする。
- ・多くの職員に普及できるよう努めたい。自分自身は必ず実施したいと思います。
- ・施設全体に今回の内容を共有できれば解決の1歩になると思う。
- ・匂いなど五感の関するアプローチの重要性を知りました。

#### そう思わない 1名

- ・やらされている感なく、上手く伝える方法があればと思う。もっと自分にスキルがなければ上手く伝えられない。

### 【Q5 今後の実践セミナーでと取り上げて欲しい内容】

- ・同様の内容でよいです。もう少し時間があっても良いかと思えます。楽しく参加することができました。
- ・大変お忙しい中、ご指導いただきありがとうございました。
- ・食上げのタイミングを教えていただきたい。
- ・食事介助のスキルアップを安価で、段階的に行っていただけたらと思えます。
- ・実際にある事例毎の介助方法の工夫など。
- ・正しいポジショニングを理解できたが、もう少し症例別に勉強してみたい。
- ・KT バランスチャートのつけ方や評価判断の仕方を具体的に（症例交えて）行っていただけると助かります。
- ・ポジショニング時のクッション類の利用方法
- ・以前も教えてもらったが、実際の患者さんの所についてポジショニングや声のかけ方、食事介助などを教えてもらいたい。
- ・リスク管理について
- ・今後も同じような内容で継続して欲しい。幅広い職員に参加してもらいたいと感じました。
- ・若年者のケアについて
- ・全介助から自力で食べられるまでの流れやお手伝いの仕方、口腔ケア（看護助手でも実施できる）の仕方
- ・端座位で、後ろに背もたれがない状態での食事の方法や、口腔ケアを嫌がる方への安全なケア方法。
- ・口腔ケアについて
- ・色々な事例でのポジショニング方法
- ・疾患別のアプローチや在宅向けの対応方法なども取り上げて頂けると幸いです。

### 【全体の評価および今後の課題】

南三陸町を会場に、初めて KTSM 実技セミナーを行うことについて、当院スタッフはもちろん気仙沼市立病院スタッフに多方面からご協力をいただいたことにより、セミナー当日の準備まで円滑に進み、セミナーは概ね問題なく実施できた。

今回、受講者アンケート結果は約 90%の回収率であった。各設問において【Q2：セミナーの内容はスキルアップにつながりましたか？】は 100%の肯定意見を得た。

【Q3：あなたの職場で「口から食べる」ことに関して困っていることや問題点はありますか？】については、今回参加いただいた方々が臨床現場において、高頻度（91%）で困難な面に直面していることが明確となった。その困難に直面している現状の場面において【Q4 上記の問題点は、本セミナーで解決できた、できそうですか？】については、今回の実技セミナーを経験することで、参加者の約 88%が解決に向けて肯定的な意見を述べており、このことから今回の実技セミナーの実施は摂食嚥下領域に対する関心の高さが伺われ、非常に有意義であったと振り返る。

今後の課題としては、アンケート結果から明らかなように、演習を主体とした相互実習により知識・技術のスキルアップにつながったこと、また実践的（症例別）なセミナーを求める意見が多数あったことから、継続して実施していく必要があり学んだことを今後の臨床現場に活かしていかなければならないと考える。

文責 南三陸病院 三浦 恵美子